

持続可能な

社会の実現

へ 広げよう長岡からへ

重点的に取り組む分野

- 環境分野
- 財政・経済分野
- 人間性(心)と教育の分野
- 政治改革の分野

SEKITAKA



せきたか通信

14号

ご挨拶

大震災と原発事故

混々とした中で4期目がスタート

おからだおこし
大切に。

本年4月に行なわれた長岡市議会議員選挙で、2674票を頂き当選を果たすことができました。今後も、選挙で訴えたことの実現に向けて努力します。また、草の根選挙(※)で4期連続当選という実績を作り出して頂いたことは、今後の草の根型政治家の増加に寄与し、長岡市政を変革する一助になるのではないかと思います(従来の政治を変える有効な方法の一つは、新しいタイプの政治家を生み出すことだと思っています)。

さて、東日本大震災と原発の爆発は、大きな犠牲と大きな衝撃を生み出しました。特に原発問題への対応は、(細かいことは書きませんが、調べれば調べるほど)国民の安全や健康よりも、原発保護に軸足が置かれているように感じます(その方が、最終的に国民のためと考えているのかもしれませんが...)。「重大事故は起こり得ない」「絶対安心」と言って原発を推進してきた原子力ムラの人々(政・官・財・学)が、事故処理や原発再稼働、放射線問題を取り仕切っている状況を許容している政治の機能不全も甚だしいものがあります。「原発は危ない」「原発は爆発する」「原発なしでもやっていける」と警告

し続けてきた専門家もおられるのですから、そういう方々の声にもっと耳を傾ける必要があると思います。震災を契機にして、国家が信用できない・機能しないという状況がますます強まっているのではないのでしょうか。

突き詰めて考えると、「経済・お金優先」「今だけ・自分だけ」といった社会の限界に近づきつつあって、そういった政治を選択し、世の中をつくってきた責任をのみ締めなければならぬと思うのです。人は皆、幸せを求めて生きています。一人ひとりの考えや個性は異なっても、幸せになりたい気持ちは全員共通です。「自分は幸せになれる」と思い込んでしまっている人はいますが、「不幸になることが喜びだ」という人には会った事がありません。そして、幸せを求める人たちの集合体が社会で、我々は社会の中で生きています。過去の「せきたか通信」で述べてきたように、個人レベルでも社会レベルでも閉そく感が漂っている状況は、そもそも「我々が追求してきた『幸せ』が本物だったのか」と検証する必要性を示唆していると思います。(新しい価値観や本当の幸せについては過去に述べていますの

で、今回は省略します) 諸外国における最近の民衆の蜂起を見ても、いよいよ大変革・大混乱時代の幕が開くのではないかと感じます。日本でも2年前の政権交代は大きな出来事でしたが、今後は更に大きなうねりが発生し、幕末に似た様相を呈すると思います。政治の在り方、政治家の在り方がより強く問われるはずですので、心してかかりたいと思います。

(※)草の根選挙:「地盤・看板・カバンなし」も一つの定義だと思いますが、地縁・血縁などの縁をそのまま票にするのではなく、縁を活かして想いや政策を訴える選挙とも言えると考えています。



1

平成23年7月

新潟・福島豪雨

地球温暖化の進行による異常気象頻発の一環と思われませんが、私の居住地域でも大きな被害がありました。

7月30日(土)、私は豪雨の音を感じし、夜明け前から近所のパトロールに出掛けました。そうこうしているうちに市内中心部を流れる柿川が溢れ、最も冠水した地点の水位は私のヘソの上に達しました。

今回の災害を現場で見届けた経験に基づいて、河川改修や防災計画への提言を行っています。

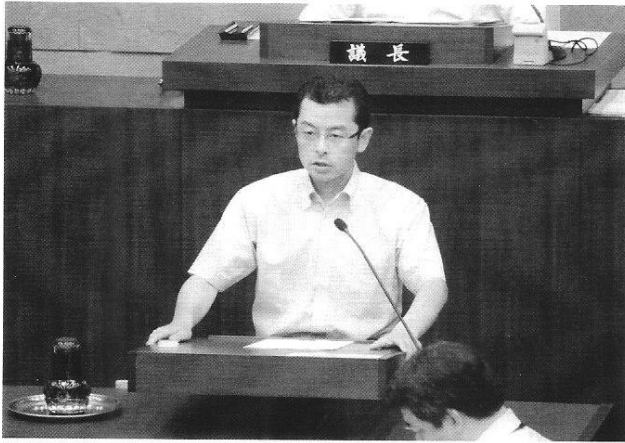
平成23年3月議会

② シティホールプラザ

「アオーレ長岡」条例に反対

関たかし 反対討論要旨

私は、コンパクトシティ(*)を実現するためなどの理由で、シティホールプラザ「アオーレ長岡」を建設し、中心市街地活性化に取り組むことに關しては、その意義を認めている。また、私はシティホール建設を機に車からバスへの転換を図るべきと主張してきた公共交通推進論者であるが、今回の問題は政策レベルの問題ではなく、物事の進め方、手続の問題である。シティホール建設の議論が始まった初



期の段階において、最も焦点となった問題の1つが、「車で行くことが不便になるのではないか」ということだった。その懸念に対し、平成18年には使い勝手のよい300台分の駐車場をシティホールわきに整備するとして、市民や議会への説明を行い、車で来られる方に不便はないと裏づける交通予測も行ったことで話が前に進んだ。

ところが、平成21年1月に、駐車場整備台数を120台に減らして、周辺の既存駐車場を活用する方針が示された。私は、既存駐車場の活用に反対ではないが、事の経緯を考えると、計画の当初に表明された「車での来庁者に不便をかけない」という方針が実現されると判断できる詳細な交通処理計画を早期に示す必要があると述べてきた。しかし、これまでに交通計画が示されてこなかったため、シティホールの建設に反対をしてきた。

本条例の制定理由も理解できるが、目標としているオープン期日まで1年を切った段階で、シティホール建設計画の当初の約束が果たされそうだと判断できる材料が乏しいのは問題である。

今回の物事の進め方、手続には丁寧さが欠けていると言わざるを得ず、この体質が定着した場合の今後の長岡市政への影響を懸念している。

したがって、このような状況の中では、長岡市シティホールプラザアオーレ長岡条例を制定すべきでないと判断し、反対

する。

(*)コンパクトシティ：環境的(温暖化など)、社会的(コミュニティや日常生活の維持など)、財政的(都市コストや税金などに持続可能な都市。その要素の一つは、中心地で行政・商業・医療などの機能が充実し、そこにバスや自転車などで気軽に移動すること)。

「市議会議員選挙期間中の街宣車使用自粛に関する決議」に反対

関たかし 反対討論要旨

東日本大震災後の大変な時期であるという視点からは、趣旨に賛同ができる。しかし一方で、市議会議員選挙は今後の長岡市の方向を定める神聖な選挙であって、神聖な選挙を適切に行うためには、有権者に対する各候補者の情報提供が十分に確保されなくてはならないことを考えると、非常に難しい判断を迫られていると感じる。そのような状況下で悩んだ末に、私は本決議に反対する。

その理由は、選挙活動において重要な役割を担う街宣車の使用自粛は、議会で決議すべきではなく、申し合わせや候補者個々人の判断によって自粛されるべきと考えるからである。

また、街宣車使用の自粛を議会という公の場で決議するのであるならば、その代わりに例えば候補者全員の合同個人演説会を開催するなどの有権者への情報提供手段を新たに用意する必要があると考

えるが、こういった別の手段が用意されていないことも問題である。

以上の理由から反対するが、苦渋の判断であったことを再度申し上げる。

私の街宣車

今回の選挙では、スーパーなどでの街頭演説のみに街宣車を使用し(街頭演説の回数も減らしました)、住宅街に入り込むことや走行中にマイクを使うことはしませんでした。

平成23年6月議会

一般質問

東日本大震災後の社会について

関たかし 質問要旨

今後の財政と経済の状況をどのように見通しているか。

財務部長 答弁要旨

国の財政は、税收減や復興財源の影響で更に厳しくなると考える。地方でも、国からの地方交付税の減収などが想定されることから、財政が一層厳しくなることを危惧している。

商工部長 答弁要旨

今後の我が国の経済見通しは、不安材料を残しながらも海外需要の伸びなどを

背景に、緩やかながら次第に持ち直していくと考えている。しかし、震災前から続くデフレの影響、円の高止まり問題など、経済のマイナス要因が残っていることから、電力供給の制約が長引けば景気へ悪影響を及ぼすことも懸念される。

長岡では、5月以降は自粛ムードが薄れたことで、消費は回復傾向にあると見られ、今後の経済全体としてはプラスの方向に向かっていくと考えている。

関たかし 質問要旨

低コスト都市(*)と地域内経済循環(*)の実現への取り組みが始まっているが、震災の財政と経済への影響を考えると、取り組みを一層強化すべきではないか。

政策監 答弁要旨

既存の都市基盤(*)の有効活用などを図りながら効率的にまちづくりを行い、無駄な投資を抑えた持続的な地域社会をつくり上げていくことが重要。市政の各分野において最少のコストで最大の効果を生み出す施策に積極的に取り組む。

商工部長 答弁要旨

地域内経済循環とグローバル経済への展開を、車の両輪のようにバランスをとりながら進むことが当市の経済発展にとって現実的な姿勢である。

(*)低コスト都市…都市の整備や維持管理(例…道路の修繕)などに多額のお金が

かからない都市
(*)地域内経済循環…地域でモノとお金
が廻ること
(*)都市基盤…道路、河川、上下水道、ゴミ
処理施設、学校などの生活・経済の基盤と
なる施設

関たかし 質問要旨

脱原発を見据えた取り組みが必要と考
えるが、どうか。

危機管理監 答弁要旨

市民の願いは、原発事故を心配しない
でよい安全で安心できる暮らしである。
そのためには100%安全な原発が前提
となるが、その実現のため長岡市は国や
事業者への強力な要請をはじめ最大限に
努力する。原発とエネルギー政策のあり
方は、原発事故について国が徹底して調
査を行い、その結果を踏まえて、原発の安
全性や代替エネルギー問題などについて
真剣に議論を尽くす必要がある。脱原発
の方向性については、そうした真剣な、ま
た多角的な議論を行って、最終的に判断
されるべきものである。

関たかし コメント

100%安全な原発はあり得ません。

関たかし 質問要旨

これまでの生活様式を、できるだけ少
ないエネルギーで維持する省エネルギー
という発想から、生活様式や社会構造を

変えてでもエネルギー使用量を低減させ
る低エネルギーという発想に進化させる
必要がある。低エネルギー社会を構築し、
必要なエネルギーは自然エネルギーで供
給することが重要と考えるが、どうか。

環境部長 答弁要旨

低エネルギー社会という方向性はまさ
にこれから求められていくものである。
また、今後の地域エネルギーについては、
これまでも生ごみバイオガス化事業や廃
食用油からのBDF化事業などのバイオ
マス資源活用事業、あるいは太陽光パネ
ル設置補助など自然エネルギーの利用に
積極的に取り組んできた。今後は、エネ
ルギーの地域自給あるいはエネルギー源の
多様化といった観点から、地域の自然エ
ネルギーの比重を高めていく努力が必要
である。

関たかし 質問要旨

ここ数十年の我々の暮らしは、未来世
代に借金を残し、地球温暖化による不安
定な気候を残し、原発から出る放射性廃
棄物(*)を残すことで維持される生活に
なっている。その根底にはモノの豊かさ
の追求、経済・お金最優先、今だけ・自分
だけといった価値観があったと考える。
現在は人類史上最高の物質文明を築いて
いるが、科学技術の発達によって地球規
模に、そして未来世代にも大きな影響を
与える世代になっていることを認識しな

くてはならない。ファスト社会→スロー
社会に、経済中心→人間中心に、競争社会
→共生社会に、部分適合→全体適合に大
きく舵を切る必要がある。価値観の転換
のために必要なのは自分自身の存在意義
を「人との比較・人からの評価」に比重を
置いて感じるのではなく、自分らしさや
自己肯定感に比重を置いて感じることに
と考える。新しい価値観によって、未来に
負の遺産を残さない、身の丈にあった社
会を構築する必要があると考えるが、ど
うか。

市長 答弁要旨

災害が起きたことによつて絆が深ま
り、心の豊かさや人とのつながりといっ
た人間本位の価値観に根差した社会をつ
くる機運が高まっており、今までの文明
というものに対する反省も生まれて、価
値観を大きく転換しようとしている。長
岡も中越地震でそのような価値観が芽生
えているので、十二分に発揮したい。

未来世代に負の遺産を残してはならな
いが、何が負の遺産かということを議論
した上で、負の遺産を残さない配慮の基
で、真に必要な社会資本等への投資は行
なつて、長岡のまちの魅力を損なわな
いように未来に引き継ぐことが重要。

(*)原発から出る放射性廃棄物…使用済
み核燃料などのことで、数万年以上の管理
が必要なものがある。電気は我々が使い、
ゴミは数万年もの後世に委ねることは道
徳的誤りと私は考える。

4 平成23年9月議会

シティホールプラザ

「アオーレ長岡」関連議案に反対

これまでの反対理由に加えて、東サービスセンター（※）開設によって本庁舎へ来る人が大幅に減ったことも述べました。

市役所移転の原点は「中心市街地に人・住む人・働く人を増やす」ことでした。私は東サービスセンター設置の議論の際に「役所移転で中心市街地に人が集まり、それによって民間活力などの導入が進み、更に賑わうという正の連鎖が始まってから開設すべきではないか」と述べていましたが、その際の懸念が現実のものとなるかもしれません。

（※）東サービスセンター：平成22年に長岡駅東地区のアクロスプラザ内に設置され、住民票や各種証明書の発行と各種届出の受理などを行う。

お知らせ

▼2012年 関たかしと語り合う会

日時 平成24年2月4日(土)
午後6:20～8:30
場所 高齢者センターしなの
2階大広間
参加費 2,500円
内容 関たかしの活動報告の後、懇親会を開催します。
申し込み 1月15日までに関たかし事務所
(Tel:32-0751)へご連絡下さい。

▼市政懇談会

日時 毎月第3土曜日
午後7:00～9:00
場所 神明公民館(長岡市信濃2丁目)
内容 自由に意見を交換します。関たかしの市政報告のほか、テーマを設けたり、講師を招いた勉強会になることもあります。どなたでも参加できます。

▼出前報告

市政の出前報告も行っています。お一人でも伺います。

▼バックナンバー

ご希望の方に「せきたか通信」1から13号をお配りします。

平成22年度・23年度
政務調査費 使途報告

案分による支出に
変えました

私は政務

調査費の適
正使用を訴
えています
ので、ガソリ
ン代や電話



代などの公私の判断がつきにくいグレーゾーンへの支出を控えてきました(公だとしても政務調査にあたるかということも判断してきました)。

しかし近年になって、高等裁判所で政務調査費の使用に対する判例がいくつか出され、その内容は案分(振り分け)に

よる支出が適正であるとされています(案分比率は裁判によって異なっています)。例えば、仙台高等裁判所ではガソリン代について、政務調査費による活動・その他の議員活動・私的使用が混在するので、私的使用が総額の2分の1、その他の議員活動での使用が4分の1とみなし、残りの4分の1を政務調査費で支出することが妥当としています。

22年度から、支出内容によっては案分の考え方を取り入れて使用しています。

平成22年度

(長岡市議会では、議員一人当たり年間72万円の調査費が支給されます。また、⑤は案分での支出です。)

調査研修費…325,939円

NOMA 行政管理講座・化学物質政策学習会・越後長岡：藤原塾・地方自治経営学会への参加費や交通費、ガソリン代⑤

※講座等の内容は関たかしHPにて公開しています

資料費……………76,000円

環境情報誌「グリーンレポート」・政治経済情報誌「ワールドレポート」・雑誌「食品と暮らしの安全」・消費者情報誌「消費者レポート」・環境情報誌「地球村通信」・農薬情報誌「てんとう虫情報」の年間購読料

広報公聴費…297,977円

せきたか通信印刷費⑤、市政懇談会会場費、ホームページ管理費⑤

情報通信費…17,182円 携帯電話利用料金⑤、FAX電話利用料金⑤

事務費……………16,872円 宛名ラベル⑤、FAXリボン、USBメモリ、朱肉など

合 計……………721,210円

(実際にはもっと使用していますが、上限の72万円を越えた時点で申請ストップとなります)

平成22年度は長岡市への返却なし



平成23年度4月分(6万円)

(市会議員選挙があったため、一ヶ月で区切られます。)

調査研修費……8,899円 ガソリン代⑤

資料費……………7,749円 各種情報誌の年間購読料の一ヶ月分

事務費……………790円 宛名ラベル⑤

合 計……………17,438円

60,000円-17,438円=42,562円を長岡市に返却

発行／【関たかし事務所】

〒940-0098 長岡市信濃2丁目10番43号

TEL. 0258-32-0751

FAX. 0258-32-0756

ケータイから、HPへアクセスできます。



【関たかし】……………

E-mail sekitaka@mail.mynet.ne.jp

ホームページ

<http://www.sekitaka.net/>

(YAHOOにて「関 貴志」で検索できます)